

元旦の朝に思う 会長 矢野 弘典

令和の御代となって初のお正月。皆さまには、お健やかな新年をお迎えのことと存じます。一年の計は元旦にあり。平和な一年であれと早朝に祈りながら、私は次の三つのことを念願しました。

第一に、常に原点に立つこと。原点とは、人生の目標としての四つのIC道徳基準と、日々の生活規範としての静かな時間です。日々静かな時間を作って内なる声に謙虚に耳を傾け、深く内省し、未熟な自分自身を磨き、自らには厳しく、人には温かく寛容をもって接したいと思います。自分を修めることができなければ、外に向かって何ごとかを成す道は遠くなるばかりです。

第二に、対外活動を進めること。個人は身近な家庭・職場・地域に調和をもたらし、協会としてはチームとして広く社会に役に立つよう挑戦するのです。日中韓学生交流、学校訪問、国際フォーラムなど昨年の成果を一層深化し、加えて新しい何かに挑戦したいと思いま

す。個人も団体も、世のために役立って初めて存在感を高め、多くの人々の支持を得、永らえることができるのです。

第三に、世界のネットワークを活用すること。ICには国・人種・宗教・政治的信条などを超えて、価値観を共有する人々の深い信頼の絆があります。お互いに連携を深め、中庸を得た不偏不党の活動によって対立を克服し、世界平和のための新しい道を切り拓くことができるものと思います。

皆さまと共に歩む一年でありたいと存じます。



「第41回 IC 国際フォーラム」の開催報告 副会長・専務理事 足立 憲昭

当協会を代表する事業として11月9～10日に、「第41回 IC 国際フォーラム」が川崎市国際交流センターで開催されましたので、その内容をご紹介します。

・今回のテーマは、「輝かしい共生社会のために ～今、私にできること～」(For a society that works for all and works together: what I can do now) でした。多くの国々で保護主義や内向き志向が顕著となってきた今こそ、民族や宗教、国や文化の違い等による価値観の異なる人々が共に手を携え共生する社会を実現しようとの思いです。

・フォーラム初日は、当協会の矢野会長が「開会の辞」を行ったあと、インドのラオ夫妻を始め海外ゲストによる基調講演や「ICの考え方」に沿った講演が続きました。さらに、アクティビティやグループ・ミーティングによって、友好の絆が高まりました。

・フォーラム2日目は、橋本名誉会長の挨拶に始まって、海外ゲスト、国内ゲストの講演が続きました。その中でも、昨年度に続いて参加された綱川ご夫妻の厳しい逆境を乗り越えられた体験談には、全員が心を打たれました。また、「第16回東北アジアフォーラム」の報告では、成理事の進行により、韓国 MRA の車総裁の話に続き、引率者須崎氏、参加者石ヶ森氏の二人が体験談を述べられ、改めて「次代を担う若きリーダーたち」への支援の重要性を感じました。さらに、日本と海外の若者が行った歌や寸劇での訴えは、参加した人々に IC の原点である「静かな時間」



や「4つの標準」の大切さを再認識させることとなりました。

次に、次回フォーラムへ向けた方向性を述べます。

①ICの考え方(道徳的な面)をバックボーンに持つ方で、国際交流活動に取り組んでいる日本人(海外経験を語れる方)、海外の方(日本に深い関わりのある方)などをゲストで招聘し、「IC精神」につながる体験事例を聴く。



②参加者全員が、協力して行うアクティビティ(ゲーム等)やワークショップ(全員が考えを述べ、グループで纏めて発表する)が絆を深めるために重要であり、そのためにファシリテーターを養成する。

③参加者が積極的に異文化コミュニケーションを体験できる場面を多くするなど、「参加型プログラム」に、重点を置く。



国際フォーラム ラオご夫妻の講演(基調講演)紹介 理事 大隈 尚子

昨年11月9日から10日に「輝かしい共生社会のために ~今、私ができること~」のテーマのもと、第41回IC国際フォーラムが開催されました。メインスピーカーのラビンドラ・ラオご夫妻(インドIC理事)を始めオーストラリア、韓国、台湾、日本から様々な宗教・文化・年齢の参加者が集い、講演者から学ぶ機会をもちました。ICの掲げる、絶対正直、純潔、無私、愛の精神に自分の在り方を照らし静かに心の声に耳を傾ける時間を持ち、少人数のグループではテーマに沿って各々が語り合い、友情を育み、絆を深めました。

基調講演をして下さったラビンドラ・ラオご夫妻の講演の一部をご紹介します。

ラビンドラ氏より

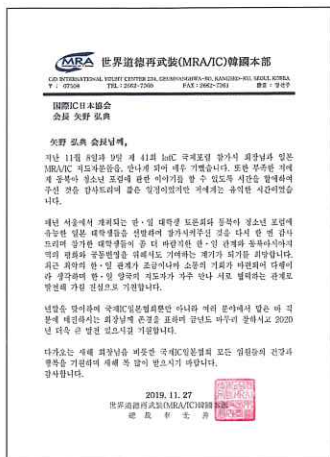
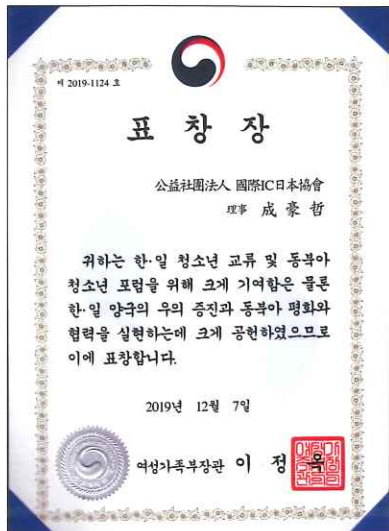
“ICの考えにコミットする決意をして54年経ちました。ごく普通の自分に、国を変え、世界を変えるための素晴らしい役割がある、ということに夢中になり自分はこのために生きようと決意したのです。私たち一人一人の生き方が世界の現状に繋がっていると信じて。

私たちが学んできたことの一つに、変革の意志を持つ人々を支援することが大切、というものがあります。二つ目は、次の人に信頼を持って託すべきということ。現在私は理事ではありますが、全体のリーダーシップは次の世代が担ってゆく方向に進めています”。

ジャヤシュリー夫人より

“貧困は私たちが働きかけ、終わらせなければならないものです。“Time of silence”を持ち、家族、社会の中においてこの貧困問題にどう対処してゆくかを考えてゆかなければなりません。それがゆくゆくは私たちの想像の域を超え、社会を変えてゆくことに繋がってゆくのです。”





受賞した 成理事

当協会で、東北アジア(日中韓)青少年フォーラムを担当している成豪哲理事に対して、昨年12月に韓国政府女性家族部(省)の李貞玉長官(大臣)より、その永年の功績に対して表彰状が授与されました。(上の写真左が表彰状)

表彰文の和訳：貴下は、韓日青少年交流及び東北アジア青少年フォーラムのために大きく寄与されたことは

もちろん、韓日両国の友誼増進と東北アジアの平和と協力を実現することに大きく貢献したため、ここに表彰いたします。(本表彰は、2015年に現顧問の長野清志氏が受賞されて以来です)

なお、当協会 矢野弘典会長に対して、昨年11月に世界道徳再武装(MRA/IC)韓国本部の車光善総裁から、東北アジア(日中韓)青少年フォーラムへの参画・協力に対して感謝状を頂戴しておりますので、併せてご紹介いたします。(写真右)

2020 夏・コー国際会議日程のお知らせ 理事 兼松 恵

一般参加者用のプログラムは、次の通り開催される予定です。

- *6/25, 26 ビジネスにおける倫理的リーダーシップ
- *7/1 ~ 5 環境と安全保障についてのダイアローグ
- *7/7 ~ 10 クリエイティブなリーダーシップ
- *7/12 ~ 16 変革をもたらす人のためのツールとは(欧州のダイアローグ)

参加申込は、2/1 からです。

なお、上記の他に、

- *6/26 ~ 7/27で、平和創造とリーダーシップのプログラム
- *6/28 ~ 7/27で、学生対象のプログラムが開催されます。

フォーラムの詳細は、Caux Forum の H/P でご覧ください。

河村建夫特別顧問の事務所を訪問

昨年12月19日、当協会の特別顧問である河村建夫衆議院議員を、矢野会長、足立副会長・専務理事、藤田理事が訪問し、「2019 東北アジア(日中韓)青少年フォーラム報告書」と参加学生の「共同宣言文」をお渡しして事業の報告をしました。河村特別顧問は、日韓議員連盟の幹事長を務められており、当協会の活動に大変関心を持ち、矢野会長との懇談が予定時間をオーバーするほどでした。なお、河村事務所には、藤田理事からの連絡で MRA 議員連盟幹事の森山浩行衆議院議員が同席され、和やかな席となりました。

また、12月25日には、足立副会長・専務理事と成理事とが外務省アジア大洋州局地域政策参事官室を訪問し木戸首席事務官に、同じく「報告書」と「共同宣言文」をお渡しして報告しました。外務省も、民間のこうした友好的な交流は大いに歓迎したいとのことでした。



前列 中央：河村衆議院議員(IC 特別顧問)
右：矢野会長
左：足立副会長・専務理事
後列 中央：藤田理事
左：森山衆議院議員(MRA 議員連盟幹事)
右：宮下事務局長

晩秋の10月末から11月中旬に、日本の東端の国後・択捉島と西端の五島列島に出かけてみた。

国後島の古釜布は根室港から3時間弱の船旅であった。特別なトラックバスに分乗して、ろうそく岩を訪ねた、昆布が転がっている砂浜の歩いても行ける近さに30m程の岩が屹立している。郷土史博物館を見学し(ここでロシア国营TVのインタビューを受けた。第一問は“ロシアは初めてですか?”であった)。昼食後、日本人墓地をお参りして手つかずの自然のど真ん中を泊山の展望台に登った。眼下に一菱内湖と温泉湖、その向こうに知床連峰が見えた。帰路はオリコイ岬でドーヴァー並みの白い岩壁を見て、宿泊先の日露友好の家(鈴木宗男ハウスより改名)に向かった。8人部屋に4人で寝た。翌日は柱状節理の材木岩に海中・岩場も踏み越えてトラックバスでギリギリまで行った。なかなかスリル満点のドライブであった。最後は岩場を歩いて絶壁の下に到着した。絶景であり、白波の向こうに知床半島が眼と鼻の先に大きく見えた。午後からロシア正教の教会と文化会館での歓迎会、お土産を買って帰船した。天候を気にしながら、取り敢えず択捉島の内岡に向かって9時間の船旅を開始した。国後水道は波高く雲低く、折角の景色は見えず夜行船となった。

11月1日早朝に内岡港沖合に投錨、波高で艇の運航停止が見込まれるため上陸時間は2時間のみとなった。又重機並みのトラックバスで宿泊予定の2年前に開業したヤンキトホテルと敷地内の鱒孵化場、海岸にある

オダイバケ温泉で足湯を楽しみ、大きな車輪型浴槽に手を突っ込んでみてからエトピリカ号に戻った。国後の安渡移矢岬や国後富士の爺爺岳を寒風の洋上クルーズで楽しみ古釜布沖合に投錨。翌朝、超簡単な出域手続き後、蜃気楼に浮かぶ色丹島を見ながら、報道陣や関係者の待ち受ける根室港に着岸した。滅多に行けない島への戦後初のビザなし旅行であり、大変素晴らしい体験となった。



国後島を背景に



高橋さんとサハリン州観光庁長官

事務局からのお知らせ



「才徳兼備のリーダーシップ」

著者：矢野 弘典
(国際IC日本協会会長)

矢野会長が新たな本を出版されました。

「才徳兼備のリーダーシップ」です。

IC協会について触れた箇所も登場します。

是非、ご一読下さい。

(時事通信社 発行)

CD「平和を築いた人」

フランク ブックマン博士(制作・著作：イマッドカラム博士)



世界の平和を築いたブックマン博士の活動を記録した日本語字幕のCDを作成しました。

近日中に会員の皆様に配賦する予定です。

総会のご案内

今年の総会のご案内を申し上げます。皆様のご出席をお待ちしております。

日時：3月14日(土) 10:30～12:30

会場：有明教育芸術短期大学 東京都江東区有明 2-9-2

アクセス：東京メトロ有楽町線「豊洲駅」下車

「豊洲駅」からバスで「東京ビッグサイト行」

又は「東京テレポート駅前行」で「都橋住宅前」下車、徒歩1分

なお、同日13:30より同じ会場で、学校訪問プログラムチーム有志によるイベントが開催されます。皆様お誘いあわせの上ご参加ください(入場料2000円、学生500円)。